



西宮市幼稚園・保育所・小学校連携推進事業「つながり」

みやっこ『つながり』カリキュラム

－幼保小接続に向けて－

作成	「つながり」検討会
発行	西宮市立子育て総合センター
事務局	西宮市立子育て総合センター 保育所事業課 西宮市教育委員会
発行年月	平成 27 年（2015 年）9 月

西宮市幼稚園・保育所・小学校連携推進事業「つながり」

みやっこ『つながり』カリキュラム

－幼保小接続に向けて－



西宮市立子育て総合センター
みやたん

目 次

I	育ちと学びをつなぐ接続期のカリキュラム	
1.	接続期のカリキュラム 作成にあたって	1
	(1) 教育・保育における接続の重要性	
	(2) 本市における「つながり」の取組み	
	(3) 接続期のカリキュラム作成の目的	
2.	幼児期から児童期への円滑な接続	2
	(1) 育ちと学びの連続性と一貫性	
	(2) 学びの基礎力の育成	
3.	西宮市における接続期のカリキュラム	2
	(1) 「生きる力」につながる「三つの育てたい力」	
	(2) 接続期のカリキュラム作成の基本的な考え	
4.	接続期のカリキュラムの見方	4
	(1) 「育てたい力」をつなぐカリキュラムの全体構造	
	(2) アプローチカリキュラム	
	(3) スタートカリキュラム	
	(4) 実践事例	
II	アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム	
1.	接続期のカリキュラムの全体構造	6
2.	「生活する力」をつなぐ	8
	(1) アプローチカリキュラム	
	(2) スタートカリキュラム	
3.	「かかわる力」をつなぐ	12
	(1) アプローチカリキュラム	
	(2) スタートカリキュラム	
4.	「学ぶ力」をつなぐ	16
	(1) アプローチカリキュラム	
	(2) スタートカリキュラム	
III	接続期のカリキュラムの実践例	
1.	アプローチカリキュラム実践事例	20
	(1) だるだる つぶれてもだいじょうぶ	
	(2) みんなでライブをしよう！	
	(3) どうぶつえんごっこをしよう	
2.	スタートカリキュラムの週案と実践例	24
	(1) 週案	
	(2) 実践例	

I 育ちと学びをつなぐ接続期のカリキュラム

1. 接続期のカリキュラム作成にあたって

(1) 教育・保育における接続の重要性

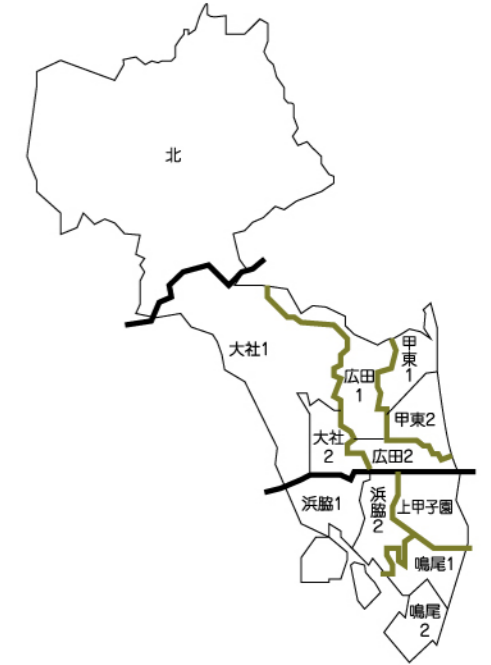
幼児期の生活や遊びを通じた心情、意欲、態度の育ちは、小学校以降の生きる力の基盤となります。子供の育ちと学びは連続しており、幼児期の保育・教育と小学校教育の円滑な接続を目指し、現行の保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領において、相互に留意する旨が規定されました。

学びの芽生えの時期（幼児期）から、自覚的な学びの時期（児童期）へのつながりを見通し、教職員同士・子供同士の交流活動に取り組む“連携”から、双方のカリキュラムをつなぐ“接続”へとステージを進めることが求められています。

(2) 本市における「つながり」の取組み

本市における西宮市幼稚園・保育所・小学校連携推進事業「つながり」は、平成16年度よりスタートしました。“地域の子供は地域で育てる”というねらいのもと、市内を12地区に分け、地区内の小学校を核としてその近隣の幼稚園・保育所が連携、交流しながら推進しています。

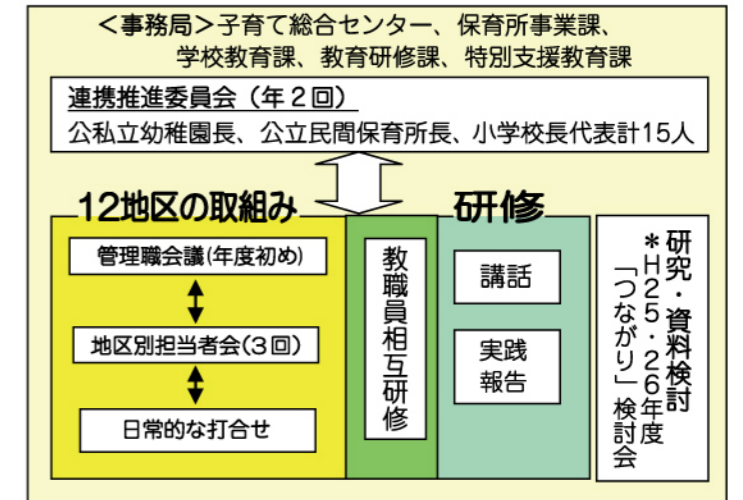
平成27年3月現在、小学校 40・特別支援学校 1・公立幼稚園 20・私立幼稚園 40・公立保育所 23・民間保育所 45の計169校園所が小学校区を中心とした連携を行っています。



(3) 接続期のカリキュラム作成の目的

これまで地区毎に管理職、担当者の会や教職員相互研修等を実施し、情報交換や保育・授業参観、意見交流などを通して、相互理解を深め、教職員同士の関係構築を進めてきました。また、幼児と児童との交流活動を全小学校区で実施することで、子供たちの体験が豊かになり、コミュニケーション力の育成につながったという成果も見られます。一方で、管理職や担当者の交替により連携が積み上がりにくいことや、交流活動が単発的で互恵性のあるものになっていないなどの課題が出てきました。その解決には、幼稚園・保育所と小学校の交流活動や連携内容をカリキュラム（教育・保育課程、保育計画、指導計画等）に位置付け、幼児期と児童期との接続を踏まえた教育課程の編成が必要と考えました。

そこで、幼児期から児童期への「学びの基礎力の育成」を図るため、平成25年度に「つながり」検討会を発足し、教職員向けの啓発リーフレットを作成しました。平成26年度は幼児期から児童期への接続期におけるカリキュラムのモデル作成に取り組みました。

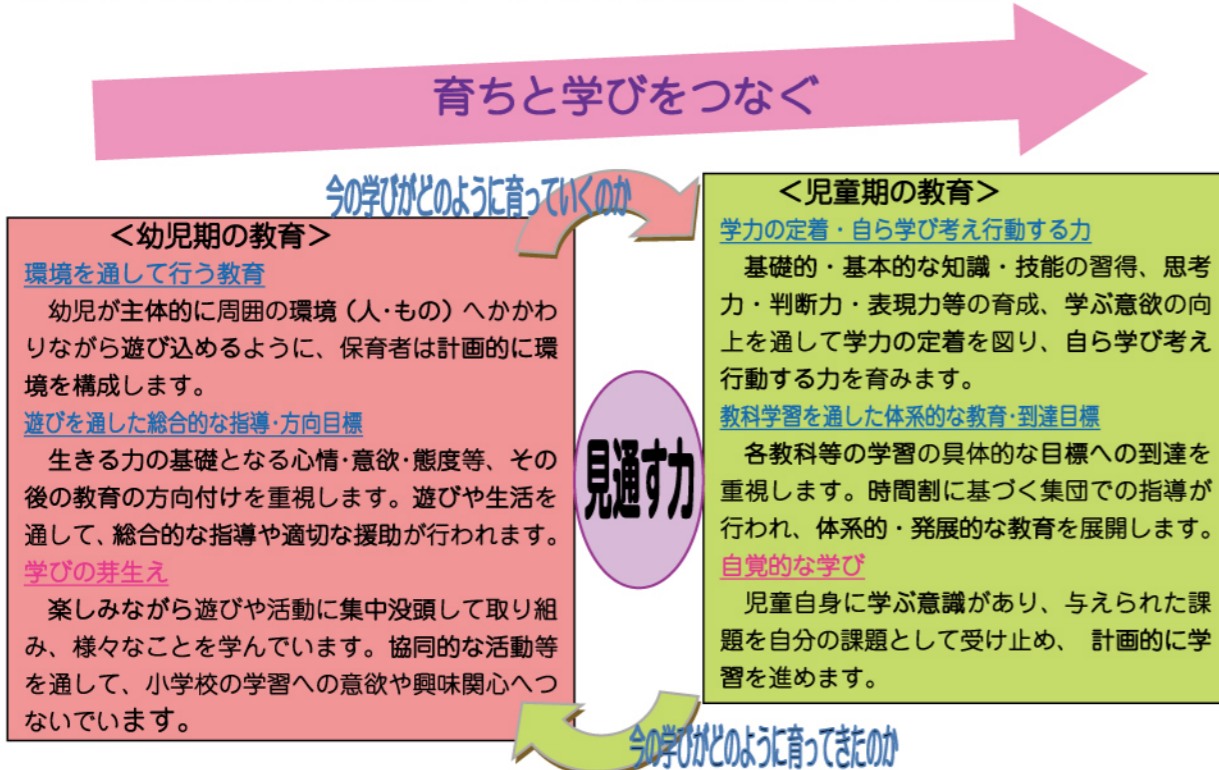


2. 幼児期から児童期への円滑な接続

(1) 育ちと学びの連続性と一貫性

幼稚園、保育所と小学校では、それぞれの教育の目的・目標、教育課程・保育課程や指導方法、活動内容に違いがあります。「円滑な接続」とは、幼稚園・保育所と小学校の段差をなくすことではなく、多少の段差は残しつつも、それらを乗り越えられるような力を育むような援助や支援を行い、その育ちや学びをつなげることです。

そのためには、幼保小の教職員が互いの保育や教育を理解し、乳幼児期から児童期への発達過程や特性を把握していることが重要です。今、目の前にいる子供たちが、これまでどのように育ってきたのか、これからどのように育っていくのかを見通す力が求められています。



(2) 学びの基礎力の育成

幼児期（特に幼児期の終わり）から児童期（低学年）にかけての教育においては、「三つの自立」（「学びの自立」、「生活上の自立」、「精神的な自立」）を養うことが目指されています。また、児童期及びそれ以降の教育においては、生涯にわたる学習基盤の形成、すなわち「学力の三つの要素」である「基礎的な知識、技能」「課題解決のために必要な思考力、判断力、表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の育成が重要です。この両者を培っていくことが「学びの基礎力の育成」につながります。

3. 西宮市における接続期のカリキュラム

(1) 「生きる力」につながる「三つの育てたい力」

保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領の共通の理念は「生きる力」の育成です。変化の激しいこれからの社会を生きるためには、知・徳・体をバランスよく育てることが求められています。この「生きる力」は教育全体の「育てたい力」であり、幼児期の教育は、生涯にわたる「生きる力」の基礎を培い、自ら学び続ける意欲や能力を育てています。本市では、幼児期から児童期の子供の実態を出し合う中で、共通する課題や接続期に育てたい子供の姿を明らかにしてきました。そこで、子供の育ちと学びをつなぎ、幼児期の教育と小学校教育を貫く「三つの育てたい力」として「生活する力」「かかわる力」「学ぶ力」を設定しました。

<三つの育てたい力>

生活する力 環境の変化に適応する力や自立して生活する力

- 規則正しい健康的な生活（食事、排泄、睡眠等）を送る。（**基本的な生活習慣**）
- 見通しをもって生活する。（**生活時程**）
- 健康に関心を持ち、自ら身体を動かそうとする。（**運動・保健**）
- 自分のことは自分でしようとする。（**身辺自立**）

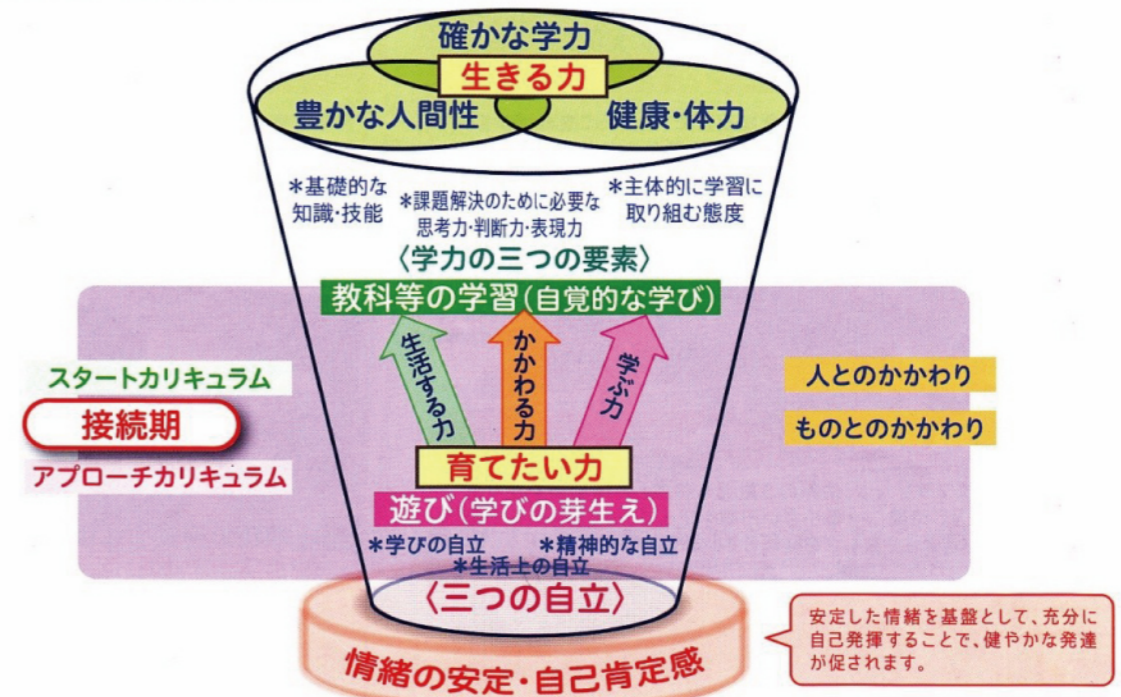
かかわる力 様々な人と関わり合いながら自己を発揮し、共に生活を創り出す力

- 身近な人と協力し、関わりを深めようとする。（**関係性**）
- 自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いて思いを受け止めたりする。（**聞く力・話す力**）
- ルールの必要性がわかり、守ろうとする。（**規範意識**）
- 自己を発揮し、我慢したり折り合いをつけたりする。（**自己調整力**）
- 自分の役割や責任を果たそうとする。（**責任感**）

学ぶ力 身近な環境に興味や関心を持ち、自ら考えてかかわる力

- 自ら考え、人やものとかかわる中で理解を深めようとする。（**思考力・理解力**）
- 周囲の環境に興味や関心を持ち、工夫したり試したり挑戦したりする。（**興味関心・探究心**）
- 集中して主体的に物事に取り組もうとする。（**主体性・集中度**）
- 豊かな感性を持ち、自分なりに表現しようとする。（**表現力・創造力**）
- 同じ目的に向かって、仲間と協力して活動する。（**協同性**）

<接続期の育ちをとらえる全体構造図>



西宮市では、「生きる力」につながる、特に幼保小接続期に「育てたい力」として「生活する力」「かかわる力」「学ぶ力」を取り上げます。

(2) 接続期のカリキュラム作成の基本的な考え

「接続期」とは、5歳児後期から1年生1学期にかけての幼保小の育ちと学びをつなぐ期間としました。本カリキュラムでは、5歳児9月から3月までをアプローチ期、小学校入学時から7月までをスタート期と設定しています。

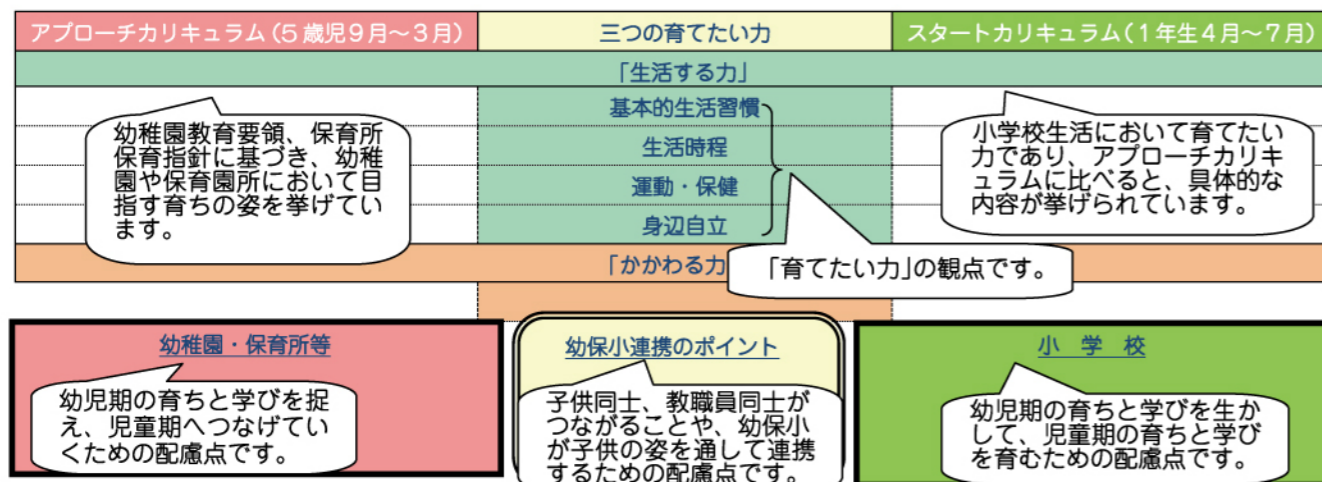
4. 接続期のカリキュラムの見方

接続期の幼保小をつなぐ柱として「三つの育てたい力」を軸に作成し、発達の流れや指導内容が明確になるように、各々の14の「育てたい力」の観点について具体的にまとめました。なお、様々な体験を通して学びが培われていくため、観点ごとの内容は相互に関連し合っています。

(1) 「育てたい力」をつなぐカリキュラムの全体構造

「三つの育てたい力」を柱とし、アプローチ期からスタート期へつながるカリキュラムとして、全体を捉えられるように作成しました。幼稚園教育要領、保育所保育指針、小学校学習指導要領のねらいに準じた内容をまとめています。また、下段には幼保小連携のポイント、幼稚園・保育所等と小学校での育ちと学びをつなぐポイントを挙げています。

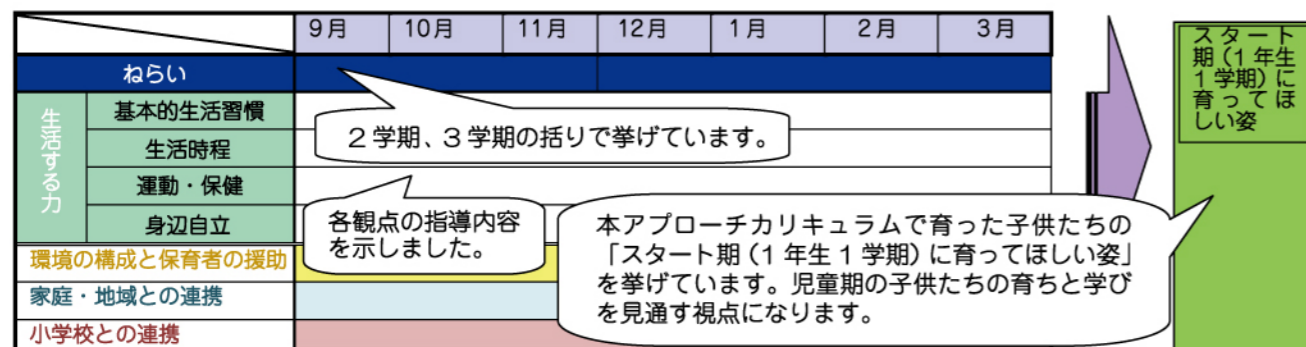
接続期のカリキュラムの全体構造 (p6~7参照)



(2) アプローチカリキュラム

カリキュラムの全体構造を具体的に提示するため、「三つの育てたい力」別にそれぞれのカリキュラムをまとめました。アプローチカリキュラムでは、アプローチ期の「ねらい」を2学期と3学期に分けて挙げたほか、スタートカリキュラムに向けて発達と学びの見通しがもてるように、「スタート期 (1年生1学期) に育ってほしい姿」を示しました。

「生活する力」をつなぐアプローチカリキュラム (例) (p8~9参照)

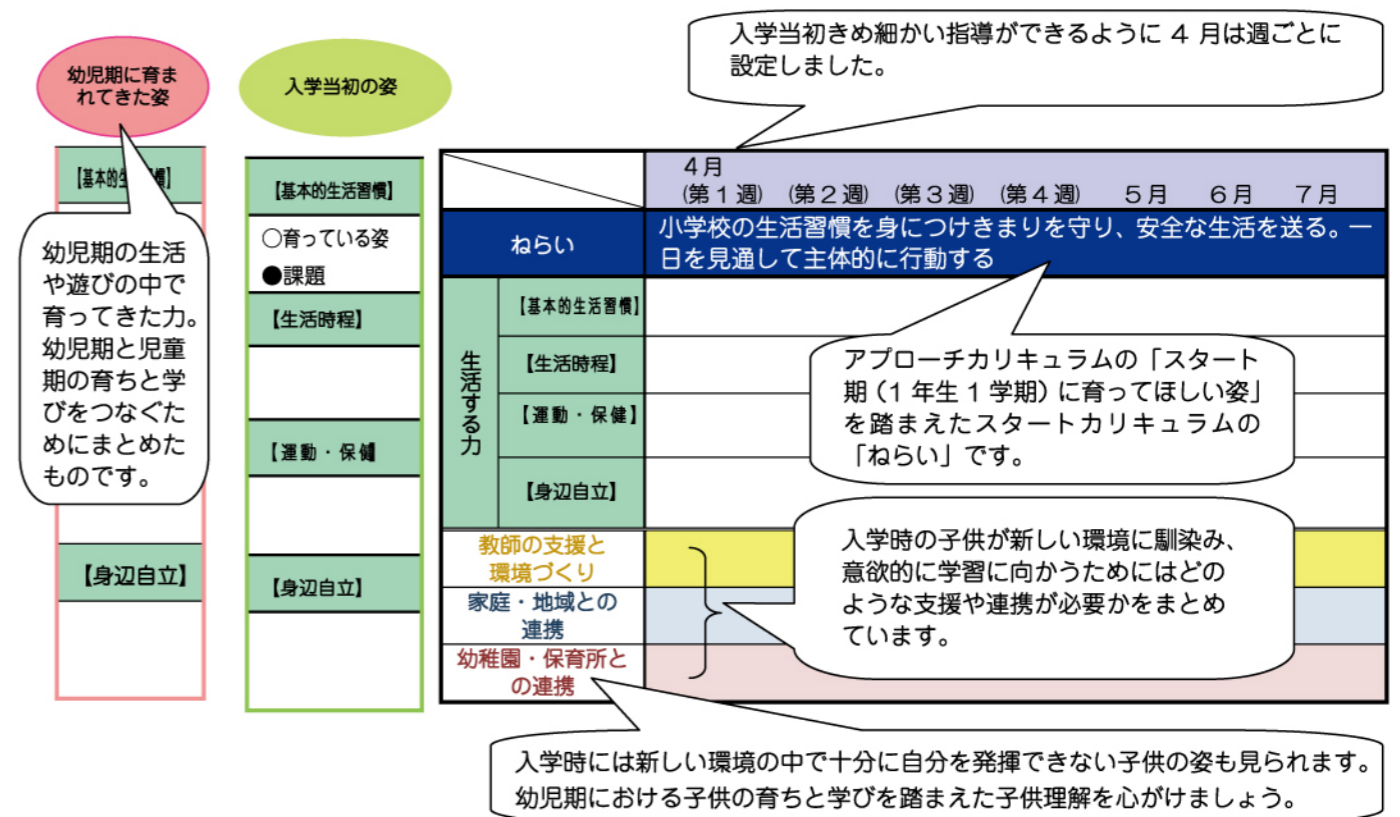


(3) スタートカリキュラム

入学当初は特にきめ細やかな指導が求められます。子供たちが無理なく円滑に新しい生活を送ることができるように、スタートカリキュラムの4月は週ごとに設定しました。

新たな環境の中で、子供たちは幼稚園や保育所とは異なることに戸惑ったり、緊張したり、逆に張り切り過ぎたりする姿が見られます。それらを環境の変化から生じているのか、幼児期から引き継いで支援していく必要があるのかなどを丁寧に捉えることが重要です。そのため、スタートカリキュラムには、「入学当初の姿」とともに「幼児期に育まれてきた力」という項目を入れました。修了までに育ってきた力を把握しておくことで、入学以降に見られる様々な子供の姿をより理解しやすくなるでしょう。

「生活する力」をつなぐスタートカリキュラム (例) (p10~11参照)



(4) 実践事例

① アプローチカリキュラムにおける実践事例



5歳児後期の生活や遊びの中では、興味や関心をもって人やものに関わって集中没頭したり、少し難しいことでも繰り返し挑戦したり、試行錯誤しながら諦めずに取り組んだりする中で、「学びに向かう力」が培われます。さらに協同的な活動では、一つの目的に向かって友達と協力したり、話し合って折り合いをつけたりしながら、自分たちでやり遂げる達成感を味わうことができるのです。また、異年齢児との関わりを通して、思いやりの気持ちや年長児としての自信が発揮されます。このような姿が見られる5歳児の事例を掲載しました。

② スタートカリキュラムにおける実践事例

入学当初のきめ細やかな指導や配慮がわかるように、4月第1週と第3週の週案を掲載しました。幼稚園や保育所等での体験を生かしながら学習活動へとつなげている生活科「がっこうだいすき・ともだちだいすき」の実践例を挙げています。生活科を中心とした合科的・関連的な指導を行うために、各教科の具体的な単元名を載せ、子供の発見や気づきを吹き出しで示しました。

II アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム

1. 接続期のカリキュラムの全体構造

アプローチカリキュラム (5歳児 9月～3月)	三つの育てたい力 「生活する力」	スタートカリキュラム (小学校1年生 4月～7月)
<ul style="list-style-type: none"> 健康な生活のリズムや必要な生活習慣を身に付ける。 身の周りを清潔にし、食事、排泄、睡眠等の生活に必要な活動を自分でする。 食に関わる体験活動を積み重ね、大人や友達と一緒に食べることを楽しむ。 幼稚園や保育所での生活に見通しをもち、必要なことを自分たちで進めようとする。 いろいろな遊びの中で十分に体を動かし、積極的に運動遊びや集団遊びをする。 自分の体に関心をもち、健康で安全な生活をしようとする。 持ち物の始末や後片付けなど自分たちで生活の場を整え、自分でできることをしようとする。 	<p>環境の変化に適応する力や自立して生活する力</p> <p>基本的 生活習慣 規則正しい健康的な生活 (食事・排泄・睡眠等) を送る</p> <p>生活時程 見通しをもって生活する</p> <p>運動・保健 健康に関心をもち、自ら身体を動かそうとする</p> <p>身辺自立 自分のことは自分でしようとする</p>	<p>施設の使い方を知り、慣れる。</p> <p>給食の準備や片付けの仕方がわかる。</p> <p>友達と一緒に給食を楽しく食べる。</p> <p>学校の決まりを守り、それらに気を付けて安全に生活しようとする。</p> <p>一日の予定を知りチャイムの合図や時計など、時間を意識して行動しようとする。</p> <p>自分の体の状態がわかり、健康に過ごそうとする。</p> <p>運動場や体育館などの広い場所で、様々な遊びや運動を体験する。</p> <p>衣服の着脱や始末が適切にできる。</p> <p>準備や片付け、整理整頓等、自分のことは自分でする。</p>
<p>「かかわる力」 様々な人と関わり合いながら自己を発揮し、共に生活を創り出す力</p>		
<ul style="list-style-type: none"> 自分の力を発揮し、互いの良さに気づき、協力して遊びや生活を進める充実感を味わい、自信や自己肯定感をもち。 いろいろな人と積極的に関わりながら、親しみや憧れをもち。 経験したことや気付いたこと、感じたことを相手にわかるように伝える。 自分の思いを伝え、相手の話を最後まで聞く。 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気づき、守る。 必要なルールについて考えを出し合ったり、作ったりしながら友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 友達と関わる中で自分とは違う考えがあることがわかり、自分の気持ちを伝えたり相手の気持ちを受け入れたりする。 人の役に立つ喜びを感じ生活の中で自分の役割やできることを見つけて取り組む。 当番活動に意欲的に取り組む。 	<p>関係性 身近な人と協力し、関わりを深めようとする</p> <p>聞く力・話す力 自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いて思いを受け止めたりする</p> <p>規範意識 ルールの必要性がわかり、守ろうとする</p> <p>自己調整力 自己を発揮し、我慢したり折り合いをつけたりする</p> <p>責任感 自分の役割や責任を果たそうとする</p>	<ul style="list-style-type: none"> 先生や学校の様々な人、友達に親しみをもつ。 地域の人や上級生などに進んで関わろうとする。 自分の伝えたいことを相手にわかるように、話そうとする。 教師や友達の話を最後まで聞く。 学校のきまりや学校外の社会的なきまりを知る。 きまりがある意味を考え、自分から進んで守ろうとする。 自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えて行動したりする。 掃除の進め方や道具の使い方などを理解し、自分の役割を果たそうとする。 係・当番など、自分の役割を知り、取り組むことができる。 
<p>「学ぶ力」 身近な環境に興味や関心をもち、自ら考えてかかわる力</p>		
<ul style="list-style-type: none"> いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。 興味・関心をもったことや疑問に思ったことを言葉で表現する。 日常生活の中で、文字や記号、数量や図形に関心をもち、遊びに取り入れる。 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。 身近な自然現象や社会現象に関心をもつ。 自然に触れて、その大きさや美しさ、不思議さなどに気づき、遊びに取り入れる。 身近な物や遊具に興味をもって関わり、試したり工夫したりして遊ぶ。 自分で考え自信をもって行動する。 自分でやりたいことを見つけ楽しむ中で、達成感や満足感を味わう。 見たり、聞いたり、感じたり、考えたりしたことからイメージをふくらませ、様々な表現を楽しむ。 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう。 生活の中で美しいものや心動かす出来事に触れ、感性を豊かにする。 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見出し、工夫したり協力したりする。 友達と役割を分担したり、考えを出し合ったりしながら共通の目的に向かって取り組む。 	<p>思考力・理解力 自ら考え、人やものとかかわる中で、理解を深めようとする</p> <p>興味関心・探求心 周囲の環境に興味や関心をもち、工夫したり試したり挑戦したりする</p> <p>主体性・集中力 集中して主体的に物事に取り組もうとする</p> <p>表現力・創造力 豊かな感性をもち、自分なりに表現しようとする</p> <p>協同性 同じ目的に向かって、仲間と協力して活動する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文字や言葉に興味をもち、正しくひらがなを読んだり書いたりする。 10までの数について、書き方や読み方、その意味や順序がわかる。 感想や疑問に思ったことを伝えたり、尋ねられたことに答えたりし、自分の考えを言葉で表す。 動植物に親しみをもって関わったり、身の回りの自然に触れたりすることを楽しむ。 新しく学ぶことに、自分から進んで取り組む。 学びたい、やってみたいという意欲をもち、集中して学習活動に取り組む。 見つけたことや感じたことをのびのびと言葉や絵などで表現する。 楽しんで読み聞かせを聞き、共感したり想像を広げたりしながら物語の面白さを味わう。 歌ったり、体や楽器を使ったりして表現することを楽しむ。 クラスの友達等と学ぶ楽しさを共有し、協同的に活動する。
<p style="text-align: center;">幼稚園・保育所等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまでの経験を生かして意欲的に取り組みながら自己発揮・自己調整する姿を認め、自信や自己肯定感をもちよう配慮する。 ○協同的な活動を通して、クラスの一人としての自分を意識し、1つの目的に向かって友達と協力しながら困難を乗り越え、達成感や充実感を味わえるようにする。 ○遊びを通して学びの芽生えが培われることを踏まえ、興味関心をもって関わったり、発見したり、試行錯誤したり、挑戦したりするような豊かな環境を構成する。また、集中没頭したり、最後までやり遂げたりするための時間と空間を保障する。 ○小学校の新しい先生や友達、上級生との出会いを楽しみにするように、身近な人々へ親しみをもって関わる姿を大切にす。 ○話し合いを通して、自分の考えを話したり、相手の話を聞いたり、一緒に考えたりする機会を用意する。 ○遊びや生活、読み聞かせの中で、文字や記号、数量、図形などに興味をもちようとする。 	<p style="text-align: center;">幼保小連携のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園、保育所、小学校の教職員がそれぞれの生活の流れや取組を理解し、共有しながら子供の育ちと学びをつなぐように心がける。 ○子供一人一人の発達や特性を理解するため、入学前にも、入学後も連携する。 ○幼児と児童の交流が互恵的に継続的な取組みとなるようデザインする。また、幼児の小学校への期待感や、児童の成長の実感や喜びを大切にす。 ○参観やオープンデー、交流会を活用して、子供の姿について話し合い、幼稚園、保育所、小学校の相違点や共通点についても理解し合う機会にする。 	<p style="text-align: center;">小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新しい環境の中で、子供たちが安心して過ごせるように配慮し、これまでの育ちや学びを理解して活動に生かすようにする。また、学ぶことを「楽しい」と感じ、その中で「わかる」「できる」と実感することで自信がもてるように工夫する。 ○幼児期から児童期が「学びの基礎力の育成」の時期であり、「学びの芽生え」から「自覚的な学び」へ移行する時期であることを踏まえて指導する。また、遊びを通して総合的に指導する幼児期の教育を理解し、教育の連続性・一貫性を図るようにする。 ○遊びを通しての学びから教科学習へとなめらかに接続できるように、体験活動を重視した学習を進める。 ○一人一人の生活習慣や学習への取組みについて、家庭と連携しながらきめ細やかな指導と配慮を行うとともに、クラスや学年の集団としても高めていくようにする。 ○休み時間の取り方、15分モジュールなどの時間配分の工夫や、生活科を中心とした合科的・関連的指導など、柔軟に対応できるカリキュラムを編成・実施する。

2. 「生活する力」をつなぐ

— 環境の変化に適応する力や自立して生活する力 —

(1) アプローチカリキュラム

		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ねらい		健康で安全な生活のための習慣を身に付け、身の回りのことは自分でしようとする				見通しをもって進んで行動する			
生活する力	【基本的生活習慣】	<ul style="list-style-type: none"> マナーを守って、友達と楽しく食事をする。 いろいろな食べ物に関心を持ち、進んで食べようとする。 和式のトイレに慣れる。 スリッパを揃える等、トイレのマナーを身に付ける。 				<ul style="list-style-type: none"> 自分から生活リズムを整えようとする。 			
	【生活時程】	<ul style="list-style-type: none"> 日にちや曜日を意識して、生活の流れに関心をもつ。 一定時間で食事を終えるようにする。 トイレはタイミングを考え、活動の合間に行くようにする。 				<ul style="list-style-type: none"> 生活の流れがわかり、見通しをもって自分から行動しようとする。 			
	【運動・保健】	<ul style="list-style-type: none"> 自分の健康に関心を持ち、自分から手洗いやうがいをする。 様々な用具に触れて、十分に身体を動かして遊ぼうとする。 安全に気を付けて遊具や用具を使う。 <ul style="list-style-type: none"> 日常の怪我の簡単な処置の仕方を知る。 交通ルールを守って、安全に行動する。 		<ul style="list-style-type: none"> 食の大切さがわかり、自分の体に関心をもつ。 いろいろな集団遊びをして、戸外で十分に身体を動かそうとする。 		<ul style="list-style-type: none"> 健康で安全な生活を送るためのきまりの大切さがわかり、守ろうとする。 危険な場所に気を付けて、安全に活動しようとする。 		<ul style="list-style-type: none"> 必要の時に使えるように、ハンカチやティッシュをポケット等に入れておく。 	
	【身辺自立】	<ul style="list-style-type: none"> 生活を整える用具(ほうき、雑巾)を使って、身の回りをきれいに 幼稚園や保育所、家庭で、遊んだ後の片付けを進んでする。 生活や遊びに必要な物の準備を自分でする。 身だしなみを整え、脱いだ服はたたむ。 <ul style="list-style-type: none"> 気温や体調に合わせて衣服を調節しようとする。 				<ul style="list-style-type: none"> 自分の持ち物、用具を整理整頓する。 準備や片付けなど、生活する場を自分たちで整える。 			
環境の構成と保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣について理解しやすいように、掲示物を準備してわかりやすくする。 食べる喜びや楽しさが味わえるような雰囲気づくりを心がける。 日にちや曜日を掲示したり、活動の予定を伝えたりして、子供が見通しをもって主体的に生活できるようにする。 時計や時計の模型を活用して、食事や排泄等、主に生活に関わる活動で、時間を意識できるようにする。 子供が喜んで運動的な遊びに取り組めるような計画をし、保育者も一緒に活動する。 生活に必要な身支度、準備や片付けを自分でできるように、機会を捉えて一人一人に援助をする。 				<ul style="list-style-type: none"> 食の体験が豊かになるように、自然の恵みや人との関わりなど関連する内容に留意する。 				
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 子供が自信や意欲をもてるように、家庭での親子の関わりや受け止めを十分にしてもらえよう、働きかける。 決まった時刻の起床・就寝や、朝の排便の習慣等、家庭と連携した生活習慣づくりを行う。 <ul style="list-style-type: none"> 就学に向けて、子供たち自身が準備や片付けができるように、家庭と連携して行う。 子供自身が見通しをもてるように、家庭でも時程を意識した生活を心がけてもらう。 食の体験を通し、幼児の生活が豊かになるように働きかける。 				<ul style="list-style-type: none"> 修了を前に、保護者と共に、子供の生活する姿を見直す。 				
小学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> 子供が学校での給食に戸惑わないよう、それぞれの幼稚園や保育所の食事の仕方を小学校に伝える。 基本的生活習慣や健康面における幼稚園や保育所の取組みを伝え、小学校生活につなげるようにする。 								

(生活する力)

スタート期
(1年生1学期)に
育てほしい姿

「小学校生活を安定した気持ちで送る」

- 小学校での生活習慣やきまりを理解して守り、小学校の生活に慣れていく。
- 時間割に基づき、見通しをもって自分から行動する。
- 健康的で安全な生活を身に付ける。

幼児期に育まれてきた力

入学当初の姿

【基本的生活習慣】
・健康な生活に必要な生活習慣が身に付いている。
【生活時程】
・見通しをもって、生活を進めようとする。
【運動・保健】
・自分の体に関心を持ち、健康で安全な生活をしようとする。
【身辺自立】
・準備や片付けなど、身の回りのことを自分でしようとする。

【基本的生活習慣】
○小学校生活を楽しみにしている。 ●偏食があり、給食に不安をもっている。 ●和式トイレに慣れていない。
【生活時程】
○教師の話を聞いて、一日の予定を知ろうとしている。 ●声をかけられないと、準備や片付けが進めにくい。 ●チャイムを意識し行動しようとするが、声かけが必要である。
【運動・保健】
○体を動かすのが好きである。 ○うがい、手洗いが習慣付いている。 ●ハンカチ、ティッシュを携帯する習慣が身に付いていない。 ●交通ルールは知っているが、集団での登下校では、自分から気を付けられない。
【身辺自立】
○自分のことを自分でしようとしている。 ●持ち物の種類が多くなり、整理がきちんとできない。 ●自分の持ち物の把握ができていない。

		4月 (第1週)	(第2週)	(第3週)	(第4週)	5月	6月	7月
ねらい		小学校の生活 習慣を身につけ、きまりを守り安全な生活を送る				一日を見通して主体的に行動する		
生活する力	【基本的生活習慣】	<ul style="list-style-type: none"> 給食の準備や片付けの仕方がわかる。 マナーを守って、友達と楽しく食べる。 好き嫌いせず、自分で決めた量を残さず食べる。 学校のトイレ の使い方を知り、慣れる。 						
	【生活時程】	<ul style="list-style-type: none"> チャイムの意味が わかる。 トイレは休み時間に済ませておく。 決められた時間内に、行動を終えられるようにする。 休み時間の遊び方や過ごし方がわかり、時刻に合わせて生活する。 一定時間内に、授業や給食の準備や片付けをする。 						
	【運動・保健】	<ul style="list-style-type: none"> 給食や食に関する話を聞き、食べ物大切さがわかる。 学校のきまりを知る。 学校のきまりを守り、安全に気をつけて生活したり学習したりする。 交通ルール を守ることの大切さを知り、安全に気をつけて登下校する。 いろいろな並び方を知り、素早く並ぶ。 遊具の使い方を知り、安全な遊び方をする。 体全体を使って、運動遊びをする。 手洗いやうがいの効果を理解し、進んでする。 ハンカチやティッシュを身に付け、必要に応じて使う。 掃除の仕方を理解し、きれいにしようとする。 						
	【身辺自立】	<ul style="list-style-type: none"> 机やイス、ロッカー の使い方を知る。 授業に使う物の用意が自分でできる。 持ち物の準備や片付け、整理整頓が日常的にできる。 忘れ物が無い ように登校準備、下校準備をする。 脱いだ衣服をたたんだり、きちんと袋に入れたりすることができる。 衣服の着替えを時間内にする。 気温や活動に合わせて衣服の着脱をする。 みんなで使う物等の片付ける場所がわかり、整理整頓する。 						
教師の支援と環境づくり		<ul style="list-style-type: none"> 新しい活動や学習 に見通しをもてるようにし、時間にゆとりをもって取り組めるようにする。 約束事や注意事項はしっかり伝え、折りに触れて繰り返し指導を行う。 安心して生活できるような環境づくりに努め、丁寧に生活の仕方を指導していく。 幼稚園や保育所での生活の仕方と異なる点を説明したり、話し合ったりして、小学校の生活リズムに慣れるようにする。 広い運動場や遊具等で安心して遊べるように、安全な遊び方やルール等を知らせたり、一緒に遊んだりする。 						
家庭・地域との連携		<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣 の定着に向けて、家庭の協力を得る。 登校前の起床、食事、身支度等を自分で時間を考えてできるように、家庭に働きかける。 学校での様子を通 信や連絡帳で保護者に伝える。 登下校の安全につ いて保護者や地域の方に見守りの協力を得る。 連絡帳を見ながら 次の日の準備ができるように、家庭の協力を得る。 						
幼稚園・保育所との連携		<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園・保育所での子供の様子や家庭環境の情報を得、配慮が必要な子供の課題や支援について連携を図る。 新しい環境の中での子供の様子を伝える。 						



3. 「かかわる力」をつなぐ

— 様々な人と関わりながら自己を発揮し、共に生活を創り出す力 —

(1) アプローチカリキュラム

(かかわる力)

		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ねらい		自己発揮し、友達の思いや考えも受け入れてかかわりを深める				友達と一緒に遊びや活動を進めていこうとする			
か か わ る 力	【関係性】	<ul style="list-style-type: none"> 友達や保育者、身近な人に自分から挨拶をしようとする。 「いっしょにしよう」「いれて」「ごめん」等、関係をつくる言葉を進んで使う。 仲間意識をもち、友達を励ましたり、頑張ったことを一緒に喜んだりする。 				<ul style="list-style-type: none"> 友達との関係を深め、励ましたり教え合ったりしようとする。 			
	【聞く力・話す力】	<ul style="list-style-type: none"> 指示や合図を受け止めながら聞こうとする。 生活の場や状況に合った言葉が使えるようになる。 自分の考えたことを相手に伝えるように話そうとする。 友達の良いところや頑張ったところを、言葉に出して認め合う。 				<ul style="list-style-type: none"> 友達の話を自分の経験と重ね合わせながら関心をもち、大勢の話し合いの場で、進んで自分の考えを話そうとする。 理由を添えて自分の考えを相手にわかるように話す。 			
	【規範意識】	<ul style="list-style-type: none"> ルールを互いに守ることで遊びが楽しくなることがわかる。 みんなで使う遊具や用具を大切にしようとする。 自分で遊ぶときに必要なきまりや約束を決め、守る。 				<ul style="list-style-type: none"> ルールを守って生活する大切さを感じる。 良いことや悪いことがわかり、自分で考えて行動しようとする。 			
	【自己調整力】	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを友達にしっかり伝えようとする。 葛藤やつまづきの経験の中で、気持ちを立て直そうとする。 友達と関わる中で、自分の考えを主張したり、適切に抑えたりしようとする。 自分と異なる考えがあることに気づき、受け止めようとする。 トラブルの解決に向けて、友達と一緒に考えようとする。 							
	【責任感】	<ul style="list-style-type: none"> 年少児の手助けや当番活動等で、人の役に立つことを喜ぶ。 当番活動に進んで取り組もうとする。 				<ul style="list-style-type: none"> 友達と遊びを進める中で自分の役割を果たそうとする。 自分の役割を果たせた喜びを感じ、自信をもつ。 			
環境の構成と保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> 伸び伸びと生活して自己発揮できるように、安心して生活できる雰囲気をつくり信頼関係を築く。 子供同士の関わりが広がるような活動が展開できるように、保育を計画する。 聞く力、話す力が育つように、全体での話し合いの機会を作り、話題を深めたり子供同士をつなぐ援助をしたりする。 ルールの必要性を理解して守れるように、遊びや生活の中で機会を捉えて働きかけたり、必要なルールを一緒に作ったりする。 一人一人の子供が思いを主張し友達の考えにも気付けるように、子供同士でのやりとりを見守り、必要に応じて仲立ちをする。 葛藤や心の揺れを受け止めたり支えたりして、自信につなげるようにする。 責任をもって活動に取り組む姿を見守り、子供自身が自分の頑張りを意識できるように、機会を捉えて認めたり励ましたりする。 								
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 子供が安定した気持ちで社会生活が送れるように、親子で触れ合う時間を大切にもらえるように働きかける。 地域の人達と関わる経験ができるように、園から地域に出かける機会を作ったり、家庭にも働きかけたりする。 集団の中での子供の様子を伝え、今後の家庭での子育ての見通しをもってもらえるようにする。 その子供なりの頑張りが育ちを保護者と共に喜び合えるように、働きかける。 								
小学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> 子供同士の関わりの中での個々の幼児の成長や、その過程等を具体的に伝える。 								



スタート期
(1年生1学期)に
育ってほしい姿

- ・ 新しく出会った友達や教師に親しみをもって関わり、信頼関係を築いていく。
- ・ 自分の考えや思いを進んで伝えたり、相手の気持ちを受け止めたりする。

「新しい出会いから、関係を深める」

幼児期に育まれてきた力	入学当初の姿
<p>【関係性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達関係の中で、互いの良さを認め合って行動しようとする。 	<p>【関係性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○挨拶をしたり、名前を呼ばれたら返事をしたりする。 ○近くにいる友達と話ができる。 ○知っている友達と話をしたり遊んだりする。 ○新しい友達に関心をもっている。 ●新しい環境の中で自分から進んで関われない。
<p>【聞く力・話す力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の話を聞き、自分の考えを相手にわかるように話そうとする。 	<p>【聞く力・話す力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分のことを話すことができる。 ○先生の話に興味をもって聞いている。 ●全体の指示を自分のこととして受け止められない。 ●自分が話したくて、友達の話を最後まで聞けない。
<p>【規範意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールの大切さがわかり、守ろうとする。 	<p>【規範意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校のきまりを守り生活しようとする。 ○遊びの中のルールを理解しようとする。 ●新しいルールに戸惑ったり、自分の気持ちを優先し、ルールを守れなかったりする。
<p>【自己調整力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の欲求や思いを伝え、納得して抑えようとする。 	<p>【自己調整力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新しい集団の中で自分の思いを積極的に言い、友達の思いを受け止められる。 ●友達に譲ったり、自分のしたいことを我慢したりできないことがある。
<p>【責任感】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団の中で自分の役割を果たそうとする。 	<p>【責任感】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○先生から頼まれたことを喜んでする。 ●当番や仕事を最後までやり遂げにくい。

	4月 (第1週)	(第2週)	(第3週)	(第4週)	5月	6月	7月	
ねらい	喜んで登校し、先生や友達に親しみをもってかかわる				学級の一員としての意識をもち、友達の良さに気付く			
かかわる力	【関係性】	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活に期待をもち、さまざまなものに関わろうとする。 ・自分から挨拶や返事ができる。 ・友達や先生の名前を覚える。 ・席の近くの友達と遊んだり話したりする。 				<ul style="list-style-type: none"> ・新しい友達に自分から声を掛けることができる。 ・ペアやグループ、異学年集団で協力をしているいろいろな活動をする。 ・登下校時、地域の人に挨拶をする。 ・学級の友達へ関心を深め、良さに気付く。 ・気の合う友達を作り、話したり遊んだりする。 ・掃除や登下校時に上級生と一緒に行動したり、話をしたりして、学校生活に慣れる。 ・「一年生を迎える会」や「学校探検」などを通して、他学年の人と親しくなる。 		
	【聞く力・話す力】	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く姿勢に気を付ける。 ・先生や友達の話を注意を向けて聞こうとする。 ・自分の願いや考えを話すことができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・友達の話をしっかり聞く。 ・話している人に目と耳を向け、関心をもって聞く。 ・教師の指示や話を最後まで聞くことができる。 ・場に応じて声の大きさを意識して話す。 ・発表の仕方を知って話す。 「はい。わたしは、～です。」「わたしは、～と思います。」 ・自分の思いや考えを、経験を添えて話す。 ・理由を添えて話す。 		
	【規範意識】	<ul style="list-style-type: none"> ・約束やきまりがある意味を知り、守る。 ・順番やルールを守り、楽しく遊ぶ。 ・みんなで使う遊具や用具を大切に使う。 				<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで決めた約束やルールを守って遊ぶ。 ・学校外の社会的なルールを意識できる。 ・友達や先生と自分の行動を振り返り善悪の判断ができる。 		
	【自己調整力】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを十分に友達に伝えようとする。 ・友達の考えを聞いてそれに対する自分の考えを伝える。 				<ul style="list-style-type: none"> ・トラブルが起こった際には、友達と考えを出し合って解決の仕方を相談する。 ・相手の気持ちを考えながら、自分の意見を伝えたり行動したりする。 		
	【責任感】	<ul style="list-style-type: none"> ・頼まれたことを進んでする。 				<ul style="list-style-type: none"> ・友達と学習や遊びをする中で、自分の役割を果たそうとする。 ・日番、係、給食当番等の内容や手順、取り組み方を知る。 ・友達と役割を分担したり、力を合わせたりして当番活動に取り組む。 ・当番活動で自分の役割を果たし、人の役に立つ喜びを味わう。 		
教師の支援と環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉遣い、表情に気を付けて、話したり聞いたり対応したりする。 ・入学当初から徐々に幅広い人間関係の中で活動できるように、クラス遊び等を計画し多人数で遊ぶ楽しさを味わえるようにする。 ・学習時間以外でも、活動の様子に気を配る。 ・生活や学習の中で、友達の良さに気付き、言葉で伝え合える機会をつくる。 ・問題が起こった時には、話し合う場をもち、必要に応じて教師も加わって意見を出し合えるようにする。 							
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の頑張ったところを認めたり、ほめたりしてもらうように家庭に伝える。 ・学校での生活や学習に関心をもってもらえるように働きかける。 ・登下校時等、地域の中で子供を見守り育てることの大切さを伝える。 							
幼稚園・保育所との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育所の人間関係の中で培ってきた一人一人の育ちを踏まえ、新しい関係の中でもその力を発揮できるように情報交換をする。 							

4. 「学ぶ力」をつなぐ

— 身近な環境に興味や関心をもち、自ら考えてかかわる力 —

(1) アプローチカリキュラム

(学ぶ力)

		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ねらい		自分らしさを発揮して様々な方法で表現することを楽しむ中で、考えたり、試したりする				意欲的に活動に取り組み、目的に向かって友達と気持ちや力を合わせる			
学ぶ力	【思考力・理解力】	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で数量や文字、図形に関心をもち、生活の中に取り入れようとする。 季節の変化等に触れ、不思議に感じたり疑問に思ったりする。 長編の物語に興味をもって聞き、お話の筋や登場人物の思いを考えたり想像したりする。 聞いたり、考えたり、気付いたりしたことを言葉で伝える。 				<ul style="list-style-type: none"> 正月遊びの中で数量や文字、図形に関心を深め自分から関わろうとする。 冬の自然現象に興味をもち、不思議に思ったり試したりする。 物語の筋道を捉え、登場人物等の心情を受け止める。 イメージしたり考えたりしたことを言葉で伝え合い、遊びを深める。 			
	【興味関心・探究心】	<ul style="list-style-type: none"> 身近な植物や虫に興味・関心をもち、触れたり、観察したり、調べたりする。 自然の営みに関心をもち、季節の変化を感じて美しさや不思議さに気付く。 秋の実りを感じ、遊びに取り入れて、試したり工夫したりする。 生活の中で必要な用具や遊具の仕組みに興味をもつ。 様々な素材や用具に関心をもち、特性に気付き活用しようとする。 				<ul style="list-style-type: none"> 冬の自然に興味をもち、季節の移り変わりや生活の変化に気付く。 春の訪れを感じ、四季折々の自然現象に関心をもち。 			
	【主体性・集中力】	<ul style="list-style-type: none"> 合図や指示に注意を向けて、自分から行動しようとする。 自分なりの目標をもって、運動遊びに挑戦しようとする。 友達と誘い合って集団遊びを楽しみ、ルールや進め方を相談する。 自分の興味をもった遊びに最後までじっくり取り組もうとする。 				<ul style="list-style-type: none"> 自分たちでルールを決めて遊びを楽しむ。 集中して遊びに取り組みやり遂げた喜びを味わう。 			
	【表現力・創造力】	<ul style="list-style-type: none"> 友達と気持ちを合わせ、リズムにのって身体表現を楽しむ。 美しいものに触れ、心を動かしたり、イメージを広げたりする。 絵画、身体、言葉などで自分の思いや考えを十分に表現する。 様々な素材を活用して作る楽しさを味わう。 				<ul style="list-style-type: none"> 様々な歌や楽器に親しみ、友達と気持ちを合わせて演奏しようとする。 絵本や物語に親しみ、色彩や言葉の美しさを感じる。 イメージを広げながら友達と一緒に様々な表現を楽しみ、共感し合う。 			
	【協同性】	<ul style="list-style-type: none"> グループの友達と考えを出し合って遊びに取り組もうとする。 友達と相談する中で色々な考えを取り入れながら遊びを進めようとする。 自分の役割がわかり自分の力を発揮しようとする。 				<ul style="list-style-type: none"> 共通の目的に向かって仲間と力を合わせ、作り上げた喜びを味わう。 			
環境の構成と保育者の援助	<ul style="list-style-type: none"> 自然の移り変わりの機会を逃さず、子供たちが心を動かしたり、発見したりする経験を重ねられるようにする。 文字や数、図形等に普段から触れ親しむことができるよう身近な環境を整える。 子供の興味や関心が広がり、また遊びが継続するように、体験が豊かになる活動内容やゆとりのある時間を場に配慮した保育を計画する。 試したり考える経験を積むことができるように、子供が十分に触れて遊ぶことができる素材や用具等を準備する。 言葉や身体、絵画や音楽等の様々な方法で表現を高め合えるように、集団の中で互いに認め合う機会を多くもつ。 知る喜びを感じたり好奇心や探究心が深まったりするように、子供の興味に応じた絵本や図鑑を用意し、環境を整える。 協同的な経験が深められるように、発達を考えた活動の進め方を考える。 友達と一緒に目的に向けて力を出し合い、やり遂げた達成感や満足感を味わう様子を受けとめ学級で共有できるようにする。 								
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の発達や成長を家庭と共に共有し、就学に向けて配慮することを理解し合う。 子供の育ちを保護者と共に振り返り、その成長を喜び合う。 子供の知的好奇心や思考力の育ちを家庭でも共感してもらえるようにする。 就学への期待と不安があることを理解し、安心してもらえるよう、相談を受けたり情報を提供したりする。 								
小学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> 交流や保育参観の機会を作って、幼児期の遊びの中での学びについての理解を図る。 								



スタート期
(1年生1学期)に
育てほしい姿

「意欲的に学習し、遊びに向かう力が高まる」

・文字や数量等などの学習に興味や関心をもち、教材や体験を通して意欲的に学ぶ。
・与えられた課題を自分の課題として捉え、学習活動の中で自分から取り組む。

幼児期に育まれてきた力

入学当初の姿

【思考力・理解力】
・多様な人やもの、ことと関わる中で、考えたり理解しようとしたりする。 ・文字や数が生活や遊びに役立つことがわかる。
【興味関心・探究心】
・物事に興味関心をもって向かい、より知ろうとしたり、より良くしようと工夫したりする。
【主体性・集中力】
・自分で考え、自分から行動して取り組もうとする。
【表現力・創造力】
・様々な方法で表現しようとする。
【協同性】
・目的に向かって、友達と考えや力を合わせようとする。

【思考力・理解力】
○聞かれたことに対して知っていることやわかったことを話そうとする。 ○数を数えることができる。 ○自分の名前を読んだり書いたりする。 ●間違っ覚えていたり、意味が理解できていなかったりする。
【興味関心・探究心】
○学校生活(学習・生活・遊び)を楽しみにしている。 ○身近な動植物に興味がある。 ○学校の施設や遊具に興味がある。 ●興味が続かず、飽きてしまうことがある。
【主体性・集中力】
○進んで手を挙げる。 ○集中して読み聞かせを聞いたり、粘土遊びをしたりする。 ○新しい環境に刺激を受け、自分からやってみようとする。 ●授業時間の後半になると集中力が無くなることもある。
【表現力・創造力】
○自分の思いを素直に表現できる。 ○友達と一緒に知っている歌を楽しく歌う。 ○描きたい絵を自由に描く。 ●恥ずかしさなどから自分の思いを言葉でうまく表現できない。
【協同性】
○自分が学級の一員であることがわかる。 ●(友達と関係性が十分できていないため)話し合ったり協力したりする活動が成立しにくい。

		4月 (第1週)	(第2週)	(第3週)	(第4週)	5月	6月	7月
ねらい		新たに学ぶことに喜びを感じる				意欲をもって進んで学習に取り組む		
学 ぶ 力	【思考力・理解力】	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひらがなを読む。 ・ ひらがなや数字を正しく書く練習をする。 ・ 声に出して文を読む。 ・ 教科書の音読をする。 ・ 10までの数の読み方、書き方を知る。 ・ 10までの数の意味、書き方を知る。 ・ 10までの数について、ブロックやおはじきを使って数える。 ・ ノートの書き方や使い方がわかる。 ・ 学校の施設や設備の使い方を考え、正しく使う。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ 気付いたことやわかったことを絵や文で書き、自分の言葉で伝える。 ・ たしざんやひきざんがわかる。 		
	【興味関心・探究心】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書やノートを使って、楽しく学習に取り組む。 ・ 教材や道具を使って、楽しく学習に取り組む。 ・ ひらがなや数字に興味をもって、言葉集めなどをする。 ・ 授業や宿題を通して、学習が身に付く喜びを感じる。 ・ 学校探検をし、学校の中の施設や自然、人々に興味・関心をもつ。 ・ 身近な公園に興味をもち、みんなで楽しく遊ぶ。 ・ 栽培活動や生き物の世話を通して、育てる喜びを感じる。 ・ 本に親しみ、読書を楽しむ。 ・ 遊具に関心をもち、進んで運動しようとする。 ・ 行事や集会活動に、楽しんで参加する。 						
	【主体性・集中力】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習規律を知り、覚え、何事にも前向きに取り組む。 ・ 姿勢に気を付けて学習する。 ・ 自分なりの目標をもって挑戦する。 ・ 友達や先生の話最後までしっかり聞く。 ・ 進んで手を挙げて発言する。 ・ 進んで家庭学習(宿題)に取り組む。 ・ 課題に最後まで取り組む。 						
	【表現力・創造力】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が思ったことや感じたことを言葉で表現する。 ・ 音読や劇などいろいろな表現方法を知り、声を出す楽しさや面白さを感じる。 ・ したことや思ったことを三文程度の文で話す。 ・ 絵本や物語に親しみ物語の面白さを味わう。 ・ いろいろな発見や気づきを絵や文で書いたり話したりする。 ・ 楽しくみんなで歌ったり、鍵盤ハーモニカなどの楽器に親しんだりする。 ・ 造形活動を楽しみ、自分の思いを表現する。 						
	【協同性】	<ul style="list-style-type: none"> ・ ペア(二人組)で活動する。 ・ 協力して係や当番をする。 ・ 自分役割を意識し、協力して活動する。 ・ ペアやグループで相談して学校探検をする。 ・ グループで力を合わせて、課題に取り組む。 						
教師の支援と環境づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育機器や教具を使い、工夫した授業を展開し、新たに学ぶことの楽しさを感じさせる。 ・ 生活科を中核にして、合科的・関連的な学習を展開する。 ・ 協同的な学習活動を取り入れ、経験させる。 						
家庭・地域との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・ 通信を通して、学習の内容・ねらい、子供の様子などを発信していく。 ・ 学習に地域の人材を活用する。 ・ 家庭での学習習慣が身に付くように、保護者に働きかける。 						
幼稚園・保育所との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園や保育所で、遊びの中で経験した学びについて受け止め、理解をして小学校の学習につなげる。 						



Ⅲ 接続期のカリキュラムの実践事例

1. アプローチカリキュラム実践事例

かかわる力

学ぶ力

(1) だんご つぶれてもだいじょうぶ

工夫したり試したりする遊び

異年齢との関わり：年長児らしさの発揮

時期：5歳児 10月

ねらい：泥団子作りを楽しみ、試したり工夫したりする。

内容：砂や泥の配合を工夫しながら固い泥団子作りを楽しむ。

異年齢児との関わりを通し、年長児としての役割や接し方に気付きながら、自分らしさを発揮する。
経過：年長児は泥団子作りが好きで、園庭の色々な場所の砂や土、泥などを試したり、配合や砂のまぶし方を工夫したりしながら固さや大きさを競い合っている。

年少・年中・年長の3クラスで園庭遊びをしている時、年長児が泥団子を夢中で作っていた。

年少児A：「先生、おだんごつくりたい。」

保育者：「いっしょにつくろっか。」

年長児B：「だんごつくるんやったらここがええで。」と泥団子に適した土の場所を教える。

しばらく年少児Aと保育士が泥を丸くしようとしていると

年長児B：「ほら見て、こんなおっきいのつくってん。Aちゃんは手がちっちゃいから、ぼくが作ってあげようか。」

年少児A：「それがいい！」と年長児Bの泥団子を指さす。

年長児B：「これはぼくのやからあかん！つくったわ！」

年少児A：「それがいい！」

年長児B：「じゃあ あげへんけど1回持たしたる。」

保育者：「Bくん、ありがとう！」「Aちゃん、お兄ちゃんが大事なおだんごあげることはできないけど、貸してくれるって。持たせてもらった後、返せる？」

年少児A：「うん…」返事をしつつも戸惑い気味の年少児A。年長児Bから泥団子を受け取る。

年少児A：「すごいな！おっきいなあ！」

B児の思いや葛藤を察し、保育者が代弁

しばらく持っている泥団子に亀裂が入り、半分に割れ、片方を落としてしまう。

年長児B：「あれっ、めっちゃかたかってんけどわれたな！もう1回つくるわ。」と笑う。

保育者：「Bくん、ごめんね。」

年長児B：「何回でも作れるから大丈夫やねん。」

さら砂がたりひんかったんやわ。待っててな。」

年長児Bは、Aちゃんが割ってしまったことには触れずに、もう一度泥団子を作っていた。

B児の思いや心の揺れの受け止め

＜保育者の援助：子供の発達を大切にし一人一人に寄り添った援助をする＞

保育者は幼児の表情やつぶやき、それまでの遊びの経過などから、その時の幼児の思いや願いを読み取りありのままを受け入れ、思いを代弁する。その保育者の寄り添う姿勢や醸し出す雰囲気、子供同士の関係をつないでいる。

＜読み取り：試行錯誤をし遊びに満足する 異年齢との関わりを通して自分らしさを発揮する＞

年長児は、試行錯誤をしながら泥団子作りを楽しみ、考えたり工夫したりし満足して遊んでいた。自分自身が試しながら取り組んだため、「少しぐらいつぶれても大丈夫」という自信となり、それが年少児への優しさにもつながっている。このような異年齢児とのやりとりが、年長児としての自分の役割を自覚し、自分らしさを発揮することにつながっている。

かかわる力

学ぶ力

(2) みんなでライブをしよう！

協同する体験：ごっこ遊び

時期：5歳児 10月

ねらい：友達と考えを出し合い、協力してごっこ遊びを楽しみ、充実感を味わう。

内容：一人一人が自分のしたい活動を楽しみ、共通の目的や遊びに向かって取り組もうとする。

A児がギターを作りたいと、空き箱と輪ゴムを使って製作を始めた。それを見て、B児、C児もギターを作る。保育者が音楽をかけると、曲に合わせてギターを弾く真似をして遊んでいた。その日の話し合いの時間、

遊びの雰囲気作り

A児「なんか、みんなでコンサートみたいなのでしたい。」

D児「じゃあ、マイク作って歌うわ。」

E児「ダンスもしたらいいんちゃう？」

保育者「じゃあ、ギター、ダンスもあるんやったら、コンサートっていうより、ライブやね！」

A児「みんなでライブしよう！」

C児「いいよ！」

遊びが広がる言葉かけ

翌日から、太鼓（ドラム）を作ったり、カスタネットを作ったり、ダンスのポンポンを作ったり、バイオリンやギロなども作り、それぞれにしたい子供が自分の楽器やダンスで使う道具を作って参加していく。最終的に、クラスのほとんどの子供がライブに出ることになった。しかし、4人の子供が「私は出ない。」「僕はいいわ。」と言っていた。

保育者の見守り

＜保育者の援助：一人一人の興味や関心から遊びを進める 一人一人の思いに寄り添う＞

幼児が自分がしたい遊びの中で、空容器等を使って制作を始めた。保育者はその遊びの行方を見守りながら一人一人が十分満足して遊びに向かえるような時間や場を大切にしたり、BGMをかけたり、話し合いの場をもったりするなど、遊びが深まり広がるような働きかけを行った。それが子供たちの協同する体験の基となっている。その過程では、無理に遊びに誘うのではなく、その子供なりの思いを大切にしながら気持ちが向くのを見守っている、一人一人に寄り添った援助を行っている。

1週間後、他のクラスの友だちに來てもらって、ライブが始まった。曲に合わせて歌ったり、踊ったりしている。ライブには出ないと言っていた4人は、お客さんの後ろで手拍子をして、一緒に歌う姿が見られた。友達の頑張っている姿を「みんな頑張れ！」と応援しているようであった。

＜読み取り：協同的な遊びの体験に向けて遊びの過程を大切にする＞

はじめは数人で楽しんでいた遊びがクラス全体での遊びに変わり、クラスみんなで楽しむライブごっこになった。それは子供たちの中で友達との仲間関係が深まってきて、「自主的に」「共に」「喜びをもって」遊びに向かう力が育ってきていると感じる。特に、「一緒にしよう」「みんなでしよう」という思いが表れ、ライブには参加しなかった子供たちも、恥ずかしかったり、他の遊びに興味があったり、様々な思いがあったと思うが、当日同じ気持ちでその空間を楽しむことができていた。そこには、みんなで話し合っ、やりとげた充実感、達成感があったのではないかと思われる。一人一人が自分の



役割をもってこの遊びを楽しんでいた。

保育者は「協同する体験」の中で育まれる遊びのプロセス（過程）を大切にしながら接続期の5歳児が共通の目的をもって遊びに取り組めるように援助することが大切である。



(3) どうぶつえんごっこをしよう

生活する力

かかわる力

学ぶ力

学級全体での協同する体験

時期：5歳児 11月

ねらい：友達の様々な考えを受け止めながらグループで協力し、最後まで取り組む。・年少児や保護者と進んで関わり、自分たちが作った物と一緒に遊ぶ喜びを感じる。

内容：グループでの制作活動に工夫して取り組み、クラス全員でどうぶつえんごっこを楽しむ。また、年少児や保護者を招待し、共に遊ぶことで満足感をもつ。

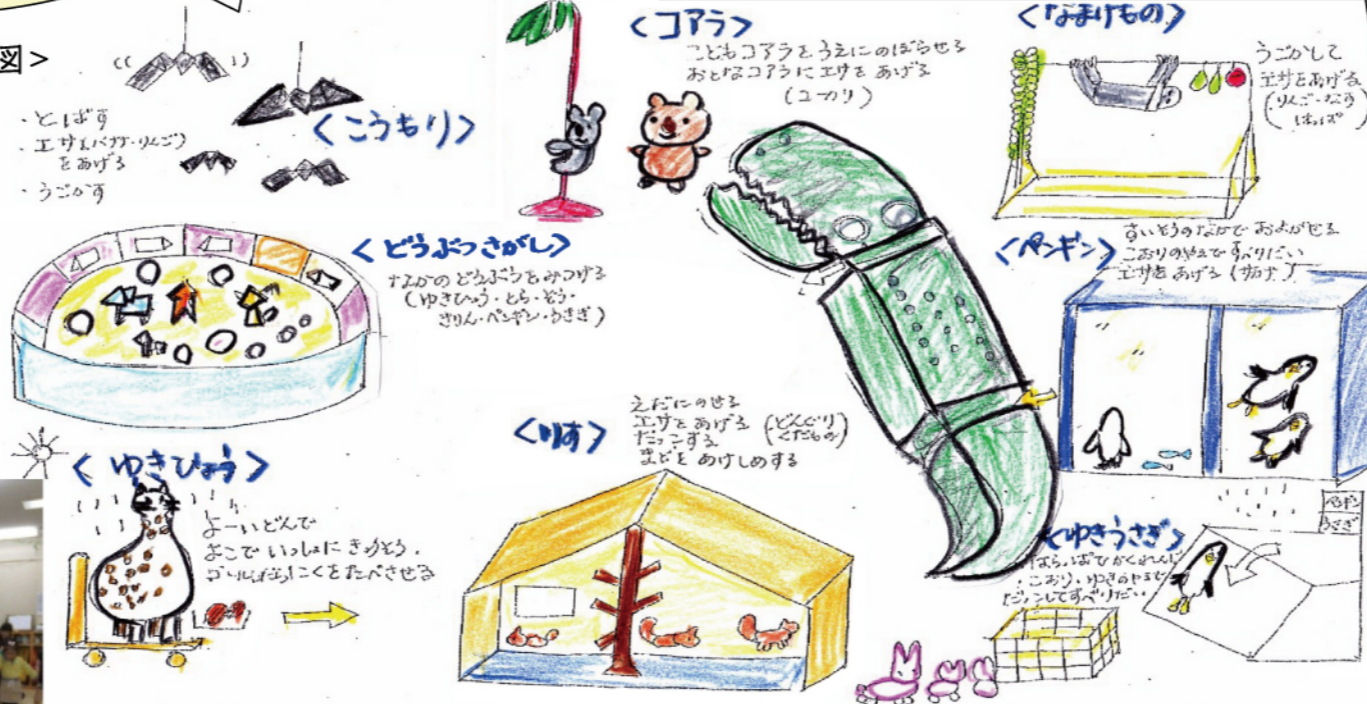
経過：昨年度、年長組が作った大型の作品で動物園ごっこの遊びを楽しんだ。その経験を思い出し、動物園へいるのか、クラスで共有することを目的に話し合う機会をもつ。「コウモリたくさんとばしたい」「ヒョウは足が速いから競争したい」など、色々なイメージが出てくる。そこで、3人ずつ9つの動物を作ることになった。作り始めると「エサは何か？」「腕の長さはどうかなあ？」など様々な疑問が出てきて、「遠足に行ったらよく見よう」という気持ちもち、遠足に臨んだ。その後はイメージが共有でき、グループで作る、他のグループを回って遊ぶ、学級全体で話し合うという活動で、他のグループの友達とも関わりながら遊びを進めた。

「どうしたらうまくいかな～」

- ・他のグループの友達から「コウモリの餌が届かなかったよ」と聞かされてグループでいろいろな方法を相談し、吊るす位置を低くする。
- ・遊んだ友達から「餌に届いて嬉しかったよ！」と言ってもらい嬉しそうな表情をする。

より遊びが楽しくなる方法を探る

<どうぶつえんごっこ 遊びの配置図>



「どうやって作ればいいかな～?」

- ・「ナマケモノを素材に何を素材にすれば上手いくのか思いつかないでいる。」
- ・保育者が、「教材室で探してみたら？」と声をかける。
- ・B児は使い慣れたモールで試すが柔らかくて落ちてしまい、全種類の針金を持って保育室に戻る。
- ・グループで材料を試しながら考え合い、針金に黒いビニールテープを巻いて爪にすることに。

視野を広げる言葉かけ

目的に向かってグループの仲間と試行錯誤する

「作れた!」

- ・A児は折り紙の本を見ながら丁寧にユキヒョウを折るが、見つけた他のグループの幼児が別の動物の名前を言ったので、残念そうな表情になる。
- ・グループの友達が「図鑑を見たら？」と声をかけ、A児は作り直し始める。「模様が黒くて丸い」等と新たな気付きもあり、工夫しながら作る。前のとは違う出来栄に満足気な様子である。

困っている友達を助け、仲間同士で課題を解決しようとする



「間に合わない!」

- ・本番が近付き、大きくて色塗りが進んでいなかったワニ作りのグループは「どうしよう?」「もう、色塗りをしないことにしよう」と相談し始める。
- ・保育者が、グループの幼児と相談して、学級全体の幼児に「間に合いそうにないんだけど…」と投げかける。
- ・他のグループの幼児から「3人で無理ならみんなでやろう!」と声があがり、絵具を塗ったり雑巾を絞ったりして手伝い始める。
- ・ペンギン作りとユキウサギ作りのグループは一緒に雪山を作っていたが、自分たちも間に合いそうにないと感じていて「私達のところも手伝って!」と声をあげる。手伝える幼児が来てできあがり、「あっという間に真っ白な雪山になった!」と喜ぶ。

学級全体で取り組む

「動物園に来て下さい!」

- ・年少クラスの友達や保護者が遊びに来ると、「ここでヒョウと競争したら、お肉を食べさせてね!」「コアラは木に登れますよ!」等と自分たちが工夫してきたことを一生懸命に話す。
- ・保護者は、子供たちに尋ねたりがんばりを認める言葉をかけたりしながら一緒に楽しもうとしている。
- ・遊んだ後の話し合いで、「たくさん来てくれて動物と仲良くしてくれて嬉しかった」等と喜びを言葉で表現する。

自分たちの遊びを年少児や保護者に広げる

<読み取り：小学校へつながる協同する経験>

- ・グループで作りあが合える援助を行った。遊びの中でも、一人一人の幼児に寄り添い支えながら、グループで考える遊びの中にも、一人一人の幼児のやる気がグループ、学級全体の育ちにつながる様子が見られた。
- ・グループでの活動にとどめないために、グループで作る、学級全体で遊び合い、話し合うという活動で、学級全体で遊んでいる意識や幼児同士の刺激につながった。
- ・友達と目的に向かって長期間取り組む中で、協同する経験が重ねられた。今回の経験をさらに3学期に深めるように保育を進め、学びをつなげていきたい。



2. スタートカリキュラムの週案と実践例

(1) 週案

① 4月第1週

しょうがっこうに、
にゅうがくしたよ!






【今週のねらい】 小学校生活に必要なきまりや約束を覚えながら、楽しく過ごす。

【主な学習活動】

1日目(入学式)	2日目	3日目	4日目
学級指導 クラス・担任の名前 友達の名前 教室の場所 自分の席 あいさつ・返事の仕方 正しい姿勢 体育館の場所 靴箱・傘立て・ロッカーの場所 下校の仕方	学級指導 朝の用意の仕方 提出物の出し方 机の中に入れるものと入れ方 健康観察(あいさつ・返事) 持ち物・提出物の確認 トイレ・手洗い場の使い方 靴箱・傘立ての使い方 学校名・クラス・他のクラスの先生の名前・隣の友達の名前 帰りの用意の仕方 集団下校 地区ごとに下校	学級指導 朝の用意の確認 健康観察(あいさつ・返事) 持ち物の確認 提出物の確認 ロッカーや引き出しの使い方(整理整頓) 正しい鉛筆の持ち方 校庭めぐり 校庭めぐりの絵 遊具の使い方と遊び 外遊び 集団下校 地区ごとに下校	学級指導 朝の用意の確認 健康観察(あいさつ・返事) 持ち物の確認 提出物の確認 学習用具や教科書の使い方 はじめての名前 運筆練習 外遊び 並び方 歌遊び 集団下校 地区ごとに下校

【三つの育てたい力・指導のポイント】

生活する力	<ul style="list-style-type: none"> 学校のトイレの使い方を指導し、慣れるようにする。 チャイムの意味を伝える。 いろいろな学校のきまりがあることを伝え、守れるようにする。 交通ルールを守ることの大切さを知り、安全に気を付けて登下校できるようにする。 	
かかわる力	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の新しい生活に期待をもち、関われるように配慮する。 自分から挨拶をし、元気よく返事をするための大切さを伝える。 友達や先生の名前を覚え、親しみをもてるようにする。 先生や友達の話を、注意を向けて聞いたり、自分の思いを話したりすることの大切さを伝える。 	
学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> 学習に使うものや教科の名前などを教える。 学習規律や必要な習慣を丁寧に指導する。 先生の話に関心をもって聞くことができるように聞き方を指導する。 	

【配慮事項】

- 学校生活に慣れていくように、授業の単位時間を10分・15分モジュールで区切ったり、場合によっては延ばしたりしながら柔軟に学習を進める。
- 歌やゲーム、手遊び、絵本等を用意し、友達と一緒に学校生活の楽しさを味わわせる。
- 机の上の学習用具類の配置の仕方、机の中やロッカーの荷物の入れ方、正しい姿勢等を掲示する。
- 下校時の地区別ルートを示した掲示物を準備し、校内で教職員の応援体制をとって教師が付き添い下校指導をする。

きゅうしょくが、はじまったよ!



② 4月第3週

【今週のねらい】 一日の学校生活のリズムや約束をつかみながら、みんなと学習や活動、遊びを楽しむ。

【主な学習活動】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
朝	元気にあいさつ 読み聞かせ	元気にあいさつ リズム遊び・手遊びうた	元気にあいさつ 仲間づくりゲーム	元気にあいさつ 読み聞かせ	元気にあいさつ 仲間づくりゲーム
1	国語 よろしくね ・カードを交換しながら自己紹介	国語 じをかこう ・文字を書く学習を知り、興味をもつ	国語 じをかこう ・易しい字形の平仮名	生活 がっこうたんけんをしよう(P27小単元2) ・2年生とペアになって探検の計画 ・探検に出発 ・見つけたことを探検マップに書く	算数 なかまづくりとかず ・10までの数
2	算数 なかまづくりとかず ・10までの数	特別活動 健康診断 ・体や健康についての話 ・受診	生活 がっこうたんけんをしよう(P27小単元2) ・2年生とグループになり自己紹介と遊び		国語 ほんがたくさん ・読みたい本を選んで読む
3	特別活動 生活 たのしいきゅうしょく ・栄養教諭からの給食の話	国語 じをかこう ・易しい字形のひらがな	体育 みんなでたのしく ・ならびっこ ・歩く、走る、跳ぶ ・遊具・鬼遊び	算数 なかまづくりとかず ・10までの数	体育 みんなでたのしく ・ならびっこ ・歩く、走る、跳ぶ ・遊具・鬼遊び
4	きゅうしょくのじゅんぴをしてみよう ・身支度や配膳等	算数 なかまづくりとかず ・10までの数	国語・書写 ひらがなのかきかた	国語 ほんがたくさん ・読み聞かせを聞く	音楽 うたでなかよしになろう ・てとてであいさつ ・ひらいたひらいた
給食	今日から給食	楽しい給食	楽しい給食	楽しい給食	楽しい給食
そうじ	6年生を見て、掃除の仕方を知る	6年生を見て、掃除の仕方を知る	6年生を見て、掃除の仕方を知る	6年生を見て、掃除の仕方を知る	6年生を見て、掃除の仕方を知る
5	生活 道徳 みんなであそぶがくろをあるこう 交通安全教室 ・通学路を歩く	音楽 うたでなかよしになろう ・ぞうさんのさんぽ ・てとてであいさつ	図画工作 「こどもの日」をいわう じゅんぴをしよう ・こいのぼりやかぶと作り	国語 ほんがたくさん ・読みたい本を選んで読む	道徳 すてきないちにち
帰り	帰りの準備 明日のお知らせ 下校	帰りの準備 明日のお知らせ 下校	帰りの準備 明日のお知らせ 下校	帰りの準備 明日のお知らせ 下校	帰りの準備 明日のお知らせ 下校

【三つの育てたい力・指導のポイント】

生活する力	<ul style="list-style-type: none"> チャイムの合図や時計等、時間を意識して取り組めるようにする。 体育や給食の時等、服やエプロンの着脱やたたみ方を教え、自分でできるようにする。 給食の準備の仕方、食べ方等を知らせ、無理なく楽しく食べられるように配慮する。
かかわる力	<ul style="list-style-type: none"> 上級生と一緒に行動したり話をしたりして、他学年の人と親しませる。 活動に入りにくい子供には声かけし、寄り添いながら活動に導く。 遊具や運動場でみんなで遊ぶ機会を作り、友達と関わる楽しさを体験させる。
学ぶ力	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな教科があることや、教科書があることを知らせ、不安なく学習できるようにする。 友達や先生の話最後までしっかり聞けるように指導する。 文字や言葉、数などに興味をもち、正しく読んだり書いたりできるように見守る。

【配慮事項】

- 給食の約束、給食当番、給食の仕事等の掲示物を準備する。
- 6年生を手本にしながら、掃除用具の使い方や掃除の仕方を指導する。
- 学校たんけんがスムーズにいくように探検マップや部屋表示等を準備する。

(2)実践例

生活科 〈がっこうだいすき・ともだちだいすき〉

単元目標

- ・校舎内や校庭を、興味をもって探検することで、学校の施設の様子や学校生活を支えてくれている人々や友達のことがわかり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにする。
- ・2年生や6年生と一緒に活動してつながりを深めるとともに、いろいろな人々に出会い、進んであいさつをしたり話を聞いたりして、学校生活を楽しむことができる。

「◇」…「三つの育てたい力」の中の主なもの

小単元1「〇〇小学校の1年生になったよ」(5時間)

- ◇学校に慣れる。(生活する力) ◇安全に気をつけ生活する。(生活する力)
- ◇教師や友達と仲良くなる。(かかわる力) ◇学校生活に意欲をもつ。(学ぶ力)

①教室や身近な場所を探検して、小学校での生活の仕方を知る。

- ・片付けの仕方(引き出し・ロッカー・靴箱 など)
- ・並び方 ・トイレ、手洗い場
- ・職員室 ・保健室

がっこうはひろいなあ。

*当初は必要な部屋を教師と一緒に回る。

②友達と教室や体育館で遊ぼう。

- ・じゃんけんれっしゃ
- ・なかまづくりゲーム
- ・おにごっこ など

ようちえんのとき、じゃんけんれっしゃであそんだよ。

③自己紹介「まほうのあくしゅでともだちになろう」

- ・自己紹介カードを作る。
- ・握手をして、サインを集める。

クラス ⇒ 学年 ⇒ 他学年へ

わたしのなまえは、〇〇です。イチゴがすきです。

いろいろなひととあくしゅができてうれしかった。

④校庭で遊ぼう。(6年生とのペア活動)

- ・6年生とペアになり、自己紹介をする。
- ・遊具の使い方を教えてもらう。
- ・6年生と一緒に遊ぶ。

おおきなゆうぐで、あそんだよ。たのしかった。

⑤みんなで通学路を歩こう。

- ・交通安全教室で、交通ルールを教えてもらう。
- ・交通ルールを守って、通学路を歩く。

〈関連する教科等〉

特別活動
きょうから1年生
やくそくときまり

音楽
うたでなかよしになろう
さんぽ 校歌

算数
なかまづくりとかず
なんばんめ

国語
はきはきあいさつ
じをかくせい
じをかこう
なまえをかこう
よろしくね

体育
特別活動(ペア活動)
みんなでのしく
・遊具の使い方
・遊びのルール

生活
みんなであそぶ
あるこう

道徳
交通安全教室
あいさつ

小単元2「がっこうたんけんしよう」(6時間)

◇2年生と仲良くなる。(かかわる力)

◇学校の人々や施設に対する関心をもつ。(学ぶ力)

①学校探検の計画を立てよう。

- ・2年生とグループになり、自己紹介をする。
- ・2年生と一緒に遊ぶ。
- ・2年生と探検計画を立てる。

2ねんせいとあそんで、なかよくなつたよ。

なにをしているのかな。のぞいてみたいな。

あのへやにいつてみたい。

②2年生と探検しよう。

- ・2年生とペアになって、探検の計画を立てる。
- ・探検に出発する。
- ・見つけたことを探検マップに書き込む。

きゅうしょくじつにおおきなべがあつたよ。いいにおいだな。

おどろいたよ。がいこつがあつたよ。

③自分たちでもう一度探検する。

- ・もっと詳しく知りたい場所を探検する。

おにいちゃん、おねえちゃんのへやにいきたいな。

もっとしりたいなあ。

いっぱいほんのあつたへやにいつてほんをよみたいな。

④2年生にお礼の絵を描いて、プレゼントをする。

- ・感謝の気持ちを絵で表す。

小単元3「こうていたんけん」(6時間)

◇グループで活動する。(かかわる力)

◇意欲をもって学習に取り組む。(学ぶ力)

①校庭探検の計画を立てる。

- ・探検隊を作る。(グループ活動)

マークをつくろうよ。

「ちびっこたんけんたい」にしよう。

リーダーは〇〇さんだ。

国語

はきはきあいさつ
じをかこう
ほんがたくさん
ぶんをつくらう
「は」「へ」「を」

算数

なかまづくりとかず
あわせていくつ

生活

特別活動
たのしいきゅうしょく

道徳

ともだちとなかよく
みんながつかうもの

道徳

ともだちとなかよく
みんながつかうもの

国語

はきはきあいさつ
あいうえおのうた
ぶんをつくらう
「は」「へ」「を」をつか
ってぶんをつくらう

体育

みんなでのしく

算数

なかまづくりとかず

②探検隊ごとに校庭を探検する。

*校庭マップを持って探検し、見た物を絵で描いたり、言葉で表現したりする。

③みんなで「〇〇小マップ」にまとめる。

④校庭を探検したり、マップにまとめたりしてわかったことをもとに話し合う。



生活
たねをまこう
せわをしよう

図工
すてきなマークをつくらう

小単元4「おきにいのばしょをしょうかいしよう」(4時間)

◇学校に安心感をもつ。(生活する力)

◇主体的に学習に取り組む。(学ぶ力)

◇思ったことをみんなに伝える。(学ぶ力)

①調べたことや見付けたことなどからお気に入りの場所を選び、みんなに伝える準備をする。

・どこを紹介するか考える。



・「みつけたよカード」に、紹介する絵を描く。
・紹介する練習をする。

②「がっこうだいすき」発表会をする。

・みんなの前に出て絵を見せながら、お気に入りの場所について話をする。
・カードを黒板に掲示し、お気に入りの場所がたくさんあることに気付く。

③「がっこうだいすき・ともだちだいすき」の活動を振り返る。



・学校にはいろいろな施設があり、たくさんの方が学校を支えていることがわかる。
・学校は、楽しく安心して生活ができる場所であることに気付く。

挿絵：川口ひずる

みやっこ「つながり」カリキュラムに寄せて 国立教育政策研究所 統括研究官 掘越 紀香

このたび、西宮市の幼児期から児童期への接続期カリキュラム、みやっこ「つながり」カリキュラムが策定されました。市内の保育所・保育園、幼稚園、小学校の先生方が何度も集まって話し合い、熱心に取り組みながら創り上げたものです。このカリキュラムでは、三つの育てたい力「生活する力」「かかわる力」「学ぶ力」を柱として、幼児期と児童期の育ちと学びがつながるように考えられています。現場の先生方がこの冊子を手にとり、「私もやってみたい」「工夫しよう」と思ったときに活用いただくため、接続期カリキュラムだけでなく、実践事例等も掲載いたしました。どうか5歳児のアプローチカリキュラムと1年生のスタートカリキュラムの両方をお読みください。幼児期から児童期への「つながり」を意識し、子供たちの育ちと学びを長いスパンで見通していただきたいのです。また、保幼小連携として継続的に交流することは、子供たちの学びの場となるだけでなく、子供たちの姿を一緒に見ながら話し合えば、先生方の気づきと学びを促す研修の場となるでしょう。「つながり」検討会構成員の熱い思いが込められたみやっこ「つながり」カリキュラムを携えて、ともに子供たちの成長と幸せを支えていただきたいと心より願っております。

平成26年度「つながり」検討会構成員 (平成27年3月31日現在)

	名前	所属
アドバイザー	掘越 紀香	奈良教育大学 准教授
委員長	田中 雅世	西宮市立瓦林小学校 校長
副委員長	西岡 敏子	西宮市立越木岩幼稚園 園長
	平見 和子	やまよし保育園 副園長
委員	田村 三佳子	甲子園二葉幼稚園 園長
	川口 ひずる	西宮市立学文殿保育所 所長
部員	上田 優美	西宮市立山口幼稚園 教諭
	織田 悦子	西宮市立生瀬幼稚園 教諭
	鑄物 太郎	関西学院聖和幼稚園 主任教諭
	関谷 真紀	甲東幼稚園 主任教諭
	梅實 宏至	西宮市立芦原保育所 保育士
	畑 華澄	西宮市立瓦木北保育所 副所長
	熊本 剛	聖和乳幼児保育センター 保育士
	藤森 寿美	かえで保育園 主任保育士
	塩野 恵子	西宮市立北夙川小学校 教諭
	森田 佐恵美	西宮市立甲東小学校 教諭
	尼ヶ崎 美弥	西宮市立上ヶ原小学校 教諭
	福原 修子	西宮市立鳴尾北小学校 教諭
	事務局	柴田 修
神崎 雅之		特別支援教育課 係長
山内 京子		保育所事業課 課長補佐
家田 明美		子育て総合センター 副所長
音羽 妙香		子育て総合センター 教育研修課 係長
幅多 陽子		子育て総合センター 指導員
平田 稔		子育て総合センター 指導員

編集後記

「夢はぐくむ教育のまち西宮」その願いを本市の子供たちに託すべく、接続期のカリキュラム作成に取り組んでまいりました。子供の育ちと学びはつながっています。この『みやっこ「つながり」カリキュラム』をもとに、幼保小の教職員が「21世紀の主人公である子供たちにこの時期に必要な力は？」「幼児教育、児童期にふさわしい体験は？」など語り合い、互いの保育や教育を理解し合える機会になればと願います。